



# モンサント(ポルトガル)

## 素材研究 (海外)

### 巨石とともに暮らす

### 「最もポルトガルらしい村」の絶景

JATA「ヨーロッパの美しい村30選」のひとつであるモンサントはポルトガル中部、スペイン国境沿いに位置する村です。巨石の隙間に家屋が建つ光景は、フォトジェニックな魅力とともに近年熱い注目を浴びています。



巨石と中世の家並みのコントラストが印象的なモンサント



さながら空中都市のようなマルヴァオン  
© João Paulo



巨石の間に立つ家



夜の静寂は宿泊してこそ感じられる風情  
© Emanuel Siracusa, Turismo Centro de Portugal

### 山奥に佇むポルトガルの秘境

ポルトガル中部に連なるエストレラ山脈の標高785メートルに位置するモンサントは、人口100人ほどの小さな村で、中部の街カステロ・ブランコから車で1時間半ほどの、山間の秘境です。

村の中に「ころ」と捨て置かれたような巨石群は、地学的には太古の時代に雨などで冷やされて固まったマグマが地上に露出したものですが、この地の人々はここを聖地として崇め、巨石群と共存するかのようになっています。驚きの景観ではありませんが、苔むした石や中世の家並みが不思議な調和を醸し、この村が1938年に「最もポルトガルらしい村」に選ばれたのも納得の風情が漂います。村は徒歩で1時間もあれば散策できる規模で、日帰り観光が主流ですが、「村の風情を味わうなら、宿泊して朝夕の景観を楽しんでほしい」とポルトガル投資貿易振興庁マーケティングマネージャーの高岡千津氏。小規模グループであれば、村や近くの民宿などを利用して、特別感を提供するのも一案です。

### モンサントを組み込み山間地域の周遊も

モンサントは公共交通機関が不便なため、ツアーに組み込むには格好の素材といえ、「モンサントの訪問とともに、中部ポル

トガルを周遊してリスボン、あるいはコインブラ方面へゆくルートも提案したい」と高岡氏は話します。

中部周遊の拠点となる街のひとつがカステロ・ブランコです。この街にはポルトガルで最も美しいといわれる庭園があります。さらにここから北に1時間ほどのベルモンテ、または南に1時間ほどのマルヴァオンには、いずれもポウザーダがあるので、ここを利用して宿泊に二味加えるのもいいでしょう。

季節の風物詩を加えることも可能です。モンサントでは5月にイスラムとの戦いを凌いだ記念の祝祭「ノッサ・セニョーラ・ド・カステロ祭り」が行われます。マルヴァオンは栗で有名な村なので秋の味覚が堪能できますし、カステロ・ブランコとベルモンテの間に位置するフィダオンは桜で知られる町。春には花やサクランボを楽しめるほか、二年を通し素朴な山の幸も魅力です。

高岡氏は「素朴なポルトガルの真髓が感じられる山間部の魅力を、ぜひ紹介していただきたい」と期待を寄せています。



ベルモンテのポウザーダ  
© Pestana Hotel & Resorts



ポルトガルで最も美しいといわれるパロック様式の庭園(カステロ・ブランコ)  
© Turismo Centro de Portugal